

関金小新聞

学校概要



【学校名】 倉吉市立関金小学校
 【所在地】 倉吉市関金町関金宿666
 【校長名】 矢田佳代
 【児童数】 141人
 【教育目標】 心豊かで、たくましく、ともに高めあう子どもの育成

【沿革】
 明治6年 湯関学校・大鳥居学校
 昭和33年 堀村学校設立。
 昭和35年 関金小と南谷小が統合し、関金小が開校。
 平成5年 現在地に移転。
 平成28年 山守小と統合し、現在 関金小が開校。



生まれたての子牛を優しくなめる母牛を見守る児童ら



「命の重み」を学ぶ

4年生・牛飼体験学習 奇跡的に出産立ち会う

関金小では4年生になる「牛飼」という体験学習がある。倉吉市関金町大鳥居の鳥飼育子さんの牛舎で行われ、牛に触れ合うことで、これから出荷されていく牛から命の重みを学ぶことが出来る貴重な学習だ。

牛舎では、児童が牛に餌をやったり体を洗ったりする体験を通して、牛と触れ合う。

本年度は児童が訪れる時に牛が産乳し、児童が奇跡的に「命の誕生」の瞬間に立ち会うことができた。

4年生の裏山風さん「この学習を通して関金の4年生は、毎年命の重みを学び、命を大切にしようという気持ちで徐々に芽生えていく。」

（福井駿、裏山歩、森木奏）

最高の演技に観客拍手

子供歌舞伎に達成感

倉吉せきがね里見まつり



歌舞伎役者になりきり熱演する児童ら

「第35回倉吉せきがね里見まつり」(実施委員会主催)が昨年9月4日、倉吉市関金都市交流センターで3年ぶりに開かれた。同まつりのメインとなる「関金子供歌舞伎」では、関金小の5、6年生の11人が舞台に立って演技した。新型コロナウイルス感染症の影響で時間短縮をして上演することになったが、児童らの熱演に観客からたくさん拍手が送られた。

子供歌舞伎では、南総里見八犬伝の「八犬士」が関金の山守地区の堀村館に集まる場面を子どもたちが披露する。

出演する児童は夏休みの間に猛練習に取り組み、練習を始めた頃には、歌舞伎の動きに慣れず苦労していたが、練習が始まってから、せりふも覚えないういけなしい演技も難しかったので「こんなのができるわい」と思っていたが、練習を積み重ねてだんだんできるようになったと振り返り、「本番では自分の練習を生かして最高の演技ができた」と笑顔で話した。

(福田剛大、笠原椿、天野茜、石賀琉生)

町探検で見つけた「えぐ芋伝説」

案内看板の前でえぐ芋の説明を聞く2年生



「思いやりを大切に」込めた思い

関金小の2年生が、生活科の学習で校区の町探検を行い、倉吉市関金町関金宿にある「えぐ芋」の案内看板を訪れた。関金小の「えぐ芋伝説」を紹介する案内看板の前で、お話を聞いた児童が話した。

6年生の石賀琉桃さんは「自分のことだけを考へる人間にはなつてはいけない、そう戒めた先人たちの思いが伝わるのがえぐ芋伝説だと分かった」と述べた。

また一人への思いやりを大切にすることを、関金の人柄を後世に伝えていくために、多くの人々が「えぐ芋伝説に触れてほしい」と話した。

(山根寛登、裏原愛花、石賀琉桃)

国鉄倉吉線廃線跡を散策

歴史ロマンと美しい自然

関金小の全校児童は、昨年10月1日に行った学校行事の「関金未来ウォーク」で、国鉄倉吉線の廃線跡を歩いた。かつて山守駅から倉吉駅までの約20キロを結んでいた倉吉線は、1985年3月末で廃止され、72年間の歴史に幕を閉じた。今でもレールやホーム跡が残っており、観光スポットやウォーキングコースとして人気を集めている。

廃線跡は関金周辺をほじめると、自然の美しさや生き生きとした生き物たちを見てほしい」と話した。

(藤井陽章、石原哲人、森下紗奈)



廃線跡を町探検する2年生

後世に伝える民家遺構



倉吉市関金町関金宿にある鳥取県指定保護文化財「鳥飼家住宅」という江戸時代中期頃の庄屋の屋敷を、現在保存されているのは主屋のみだが、建築当時は米蔵などの複数の

以前、同住宅内を見学した6年生の天野茜さんは「屋根がわらでできているが、雨や雪をしのげるのだから、昔ながらのものがあるのだから、今は機械でやるものも、昔は手作業でやっていたことが分かった」と話した。

(玉井琉桜矢、杉谷咲和)

鳥飼家住宅の外観を見学する児童ら

星が綺麗に見える町 「星取県」保全地域指定



天体望遠鏡で星を観察するイベント参加者(本紙関金通信部提供)

鳥取県は、美しい星空が見える環境を県民の財産とする鳥取県星取県保全条例が制定され、「星取県」をアピールしている。優れた星空環境を保全することが特に必要であるとして、同条例により2017年4月に関金全域が星取県保全地域に指定された。

倉吉市関金町泰久寺の大山池近くにも同関金B&G海洋センターがある。同センターから大山池を眺めると、街灯が池に映り、空には満天の星空の中に天の川が見える。絶好の星空観察と星空撮影スポットで、

小椋会長は「この唄をなくしてはいけない、文化を続けていきたい、いろいろな人に見てもらいたい」という思いで伝えている。目を輝かせて一生懸命語った。

6年生の笠原椿さんは田植唄おどりに「面白かったし、本当の田植えに似ていて驚いた」と話した。

これからもこの唄やおどりは、受け継がれ伝えられていく。

(梅山湖涼、保田清那)

歌い継がれる「関金田植唄おどり」

関金の伝統芸能の一つに「関金田植唄おどり」がある。関金田植唄おどり伝承保存会(小椋広之会長)が伝えている。

この唄は、鎌倉・室町時代からあり、苗を手で植えていた時の様子を伝える。人々は唄のリズムに合わせて田植えをしていた。歌い継がれてきた田植え唄に、地元の名手長野富士子さんが振り付けをした。昔は笛でリズムをとっていたそう



関金田植唄おどり(伝承保存会提供)

6年生が作った新聞です